

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	従業員立替金	8,000	現金	20,000
	雑損	12,000		
2	仕入	150,000	売掛金	120,000
			買掛金	30,000
3	当座預金	80,000	償却債権取立益	80,000
4	給料	200,000	所得税預り金	30,000
			当座預金	170,000
5	水道光熱費	40,000	当座預金	300,000
	引出金	260,000		

・解説

- 現金過不足に関する問題です。現金過不足勘定を雑益または雑損に振り替える仕訳は、日商簿記検定 3 級では頻出の論点ですので、必ず出来るようにしておいてください。

期中において現金の実際有高と帳簿残高の金額が異なることを発見した場合、帳簿残高を実際有高に合わせるために、**現金過不足勘定を使って一時的に処理**します。原因調査の結果、原因が判明したものについては当該勘定に振替え、原因が判明しなかったものについては雑損または雑益勘定に振替えることとなります。

ただ本問は、期中ではなく決算において現金の過不足が判明した、とありますので、現金過不足勘定は使わずに調整することになります。なぜなら、現金過不足勘定は、期中において現金の実際有高と帳簿残高の金額が異なることを発見した場合に**一時的に使用する勘定**であり、決算期末において貸借相殺されるものだからです。

■原因が判明したもの

問題文に「現金過不足額のうち 8,000 円は、従業員個人が負担すべき交通費を店の現金で肩代わりして支払った取引が未記帳であったためであることが判明」とありますので、従業員立替金勘定または立替金勘定を使って処理することになります。

(借) 従業員立替金 8,000 / (貸) 現金 8,000

■原因が判明しなかったもの

問題文に「残りの現金不足額の原因は不明」とありますので、原因不明分の12,000円については、雑損として処理することになります。

(借) 雑損 12,000 / (貸) 現金 12,000

現金過不足に関する問題は、第110回の問4や第111回の問4、第115回の問1、第123回の問2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

2. 仕入取引に関する問題です。この問題は【為替手形に関する仕訳】【掛け仕入に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

・為替手形に関する仕訳

問題文に「代金のうち120,000円については、売掛金のある得意先を名宛人とする為替手形を振り出し、得意先の引き受けを得て渡し」とありますので、為替手形を振り出したことが分かります。これに関しては得意先である藤堂商店との間で以下の会話があったとイメージすると分かりやすいかもしれません。

当社・・・「こんちくわ～。僕の好きな動物はバニーガールです！」

得意先・・・「相変わらずつまらないですねえ。今日はどうしたんですか？」

当社・・・「そうそう、うちっておたくに対する売掛金ありましたよねえ」

得意先・・・「ありますねえ。支払いはもうちょっと待ってくださいね」

当社・・・「あのさー、その売掛金使って仕入してもいいかなあ？」

得意先・・・「為替手形を振り出して仕入代金を払いたい、ということですか？」

当社・・・「そうなんですよ～。手形引き受けてくれますか？」

得意先・・・「じゃあその手形を引き受けましょう。手形に判子押しておきますね」

当社・・・「ありがと～。これで仕入先の人に渡せるよ。手形分だけ売掛金減らしておくね」

得意先・・・「いえいえ。じゃあうちもおたくに対する買掛金を減らしておきま～す」

★解答①・・・(当社の仕訳)

(借) 仕入 120,000 / (貸) 売掛金 120,000

☆当社得意先の仕訳

(借) 買掛金 120,000 / (貸) 支払手形 120,000

☆当社仕入先の仕訳

(借) 受取手形 120,000 / (貸) 売上 120,000

当社得意先は、当社発行の為替手形を引き受けた結果、支払手形債務が増加し、買掛金債務が減少することになります。一方、当社仕入先は売上の対価として、他社振出の為替手形を受け取ることにありますので、受取手形債権が増加することになります。

・ 掛け仕入に関する仕訳

残りの 30,000 円に関しては、単に掛仕入しただけですから簡単だと思います。

★解答②

(借) 仕入 30,000 / (貸) 買掛金 30,000

上記の①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。為替手形の処理に関しては苦手イメージを持っていらっしゃる方がたくさんいますが、ひとつひとつに分解して考えれば十分正解にたどりつける問題です。

3. 貸倒債権の回収に関する問題です。貸倒債権の回収は当該貸倒債権が、当期に貸倒処理されたものなのか、前期以前に貸倒処理されたものなのかによって仕訳が変わってきますので、そのことを念頭において問題を解くようにしてください。

■ 当期発生債権・当期貸倒処理・当期回収

☆貸倒時

(借) 貸倒損失 **** / (貸) 売掛金 ****

☆回収時

(借) 現金など **** / (貸) 貸倒損失 ****

当期に発生し、当期に貸倒れ処理を行った債権を回収した場合、**貸倒れ時に計上した貸倒損失の一部または全部を取り消す仕訳を切る**ことになります。

■前期以前発生債権・前期以前貸倒処理・当期回収

☆貸倒時

(借) 貸倒損失 or 貸倒引当金 **** / (貸) 売掛金 ****

☆回収時

(借) 現金など **** / (貸) 償却債権取立益 ****

前期以前に発生し、前期以前に貸倒れ処理を行った債権を回収した場合、貸倒れ時に計上した貸倒損失や貸倒引当金を取り消すのではなく、**償却債権取立益という特別利益を計上する仕訳を切る**ことになります。

なお、問題文の「**貸倒引当金勘定の残高は 60,000 円である**」という記述はダミーデータですので、惑わされないように注意してください。貸倒れ債権の回収に関する問題は、**第 104 回の問 1**でも出題されていますので、併せてご確認ください。

4. 所得税の源泉徴収に関する問題です。この問題は【源泉徴収額 30,000 円に関する仕訳】と【手取り金 170,000 円に関する仕訳】を区分した上で、それぞれどのような仕訳を切ったか考えると分かりやすいです。

・所得税の源泉徴収に関する仕訳

まず「**源泉徴収額 30,000 円**」のほうですが、これは税金額を天引きしておいて、後で会社が税務署に納税するものですので、天引き段階では**預り金勘定**または**所得税預り金勘定**を使って処理することになります。

(借) 給料 30,000 / (貸) 所得税預り金 30,000

・給料の支払いに関する仕訳

残りの「**手取り金 170,000 円**」ですが、こちらは単に従業員に給料を払ったという仕訳を切るだけです。なので簡単です。

(借) 給料 170,000 / (貸) 当座預金 170,000

このように分けて考えると分かりやすくなりますので、すぐに解答の仕訳がイメージ出来なかった方は、まずはひとつひとつ分解する方法で慣れていってください。

なお、解答の勘定科目名は特に指定が無い場合は「預り金」勘定でも「所得税預り金」勘定でもどちらでもOKですが、実際の本試験では、問題文で与えられている勘定群の中からどちらかの勘定科目を選ぶようにしてください。

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第106回の間5、第109回の間2、第121回の間2などでも出題されていますので、併せて押さえておくようにしてください。

所得税の源泉徴収に関する問題は、以前に比べると出題頻度は低くなってきていますが、たま〜に過去問をそのまま焼き直したような仕訳問題が出題されますので、過去問の対策は必ずしておいてください。

5. 資本の引き出しに関する問題です。本問はまず【会社が負担すべき支出】と【事業主が負担すべき支出】を分けていきます。

■水道光熱費 60,000 円・事業主の所得税 240,000 円の内訳

- ・水道光熱費 60,000 円うち 40,000 円は**会社が負担すべき支出**
- ・水道光熱費 60,000 円うち 20,000 円は**事業主が負担すべき支出**
- ・事業主の所得税 240,000 円は全額**事業主が負担すべき支出**

以上より、会社が負担すべき支出が 40,000 円、事業主が負担すべき支出が 260,000 円となりますが、事業主が負担すべき支出を会社が肩代わりして支払った場合、**資本の引き出しとして処理すること**になります。解答では引出金勘定を使って処理していますが、特に指示がない場合は資本金勘定でも正解となります。

引出金勘定で処理する場合と、資本金勘定で処理する場合の両者の違いは、資本金勘定を使って**直接的に減らす**か、引出金勘定を使って**間接的に減らす**かという点です。なお、間接的に減らした場合は、決算期末において、引出金勘定と資本金勘定を相殺する仕訳が必要になります。

■引出金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 引出金 260,000 / (貸) 当座預金 260,000

☆期末時

(借) 資本金 260,000 / (貸) 引出金 260,000

■資本金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 資本金 260,000 / (貸) 当座預金 260,000

☆期末時

仕訳なし

資本金・引出金に関する問題は第102回の間3や第106回の間4、第107回の間2、第111回の間3、第114回の間2、第122回の間1でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。